

# 国営土地改良事業 再評価

## 現地調査概要

北海道開発局農業水産部

## 地区別現地調査概要 目 次

(国営農地再編整備事業)

南 <sup>みな</sup> 長 <sup>なが</sup> 沼 <sup>ぬま</sup> 地区	.....	1
--	-------	---

令和3年度 再評価「南長沼地区」国営事業評価技術検討会  
現地調査概要

日 時：令和3年6月10日（木） 9:30～12:00

出席者：

（技術検討会） 長澤委員長、井上委員、岡村委員、紺野委員、波多野委員、森委員  
（地元関係団体等） 農業者、長沼町、ながめま土地改良区、ながめま農業協同組合  
（事務局） 北海道開発局

概 要：Web会議

【現 地】

概要説明、現地中継

【意見交換会】

委員から事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

- ・事業の発意としては、地区内のほ場は低平地で水はけが悪く、排水路の整備も行きとどいていないことから水害に悩まされていた。また、農道の配置も悪く農作業の効率も良くない状況であったため、農地の区画整理を行うとともに、暗渠排水や排水路の整備を行い排水性の改善を行うことが必要であった。
- ・事業の効果については、ほ場の大区画化、用排水路及び暗渠排水が整備され、作業効率が向上するとともに、大雨時には災害が減少し災害防止機能としての役割が強化され、トマト、ブロッコリー等高収益作物の作付が可能となった。また、作業時間の短縮により、女性が農産物直売所や施設野菜に取り組んだりする環境が整ってきている。更に、地域の大区画化を契機にRTKとGPS基地局が稼働され、地区内でもGPS搭載農機が稼働しており、今後このようなICT農業を進めることで若い農業者が育っていくことが期待出来る。
- ・施設の維持管理と各農家との連携については、用水路の配置変更やパイプライン化により、ほ場の大区画化が図られ、草刈り等の維持管理も従前と比べ省力化が図られている。
- ・大区画化による労働時間削減と離農地の継承については、毎年Uターンや都市部からの新規参入による就農があり、地元もそれらの支援体制に取り組んでおり、農地の継承が図られている。また、労働時間の削減効果により、特に女性はきつい営農作業から消費者との交流を楽しみながら仕事ができる環境になっている。

- ・ ICT農業の取り組みとしては、ICT 農機に投資出来るかは個々の経営状況によるものがあるが、利便性や必要性については理解しており、地元でも RTK 基地局を設置し令和元年度より稼働している。
- ・ 環境との調和への配慮としては、事業実施前から生息していた魚類や鳥類は工事実施後も見られ、環境の変化は少ないと感じている。
- ・ 経営規模と法人化の状況については、長沼町での法人化は個別完結型大多数である。経営規模は、100ha を経営している事例もあるが現状は 50ha を一つのターニングポイントとして捉えている。
- ・ 環境保全型農業に繋がる作業としては、化学肥料の減肥、農薬投入量低下を実施している。お米については「YES!Clean」の認証を取得している生産者もいる。また、本事業による大区画化や用排水の分離により、田畑輪換が可能となったことで、クリーン農業あるいは環境保全型農業に取り組みの動機付けなったと感じている。
- ・ 土地利用の整序化については、本事業において農地や農道等の施設を整然と整備するとともに、換地による農地の集積・集約を行うことで営農作業の効率化・省力化を図ることが出来たと考えている。

以 上